

第18回証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会（書面）

2022 年 12 月 16 日

議 案

- 株主優待SDGs基金に関する2022年度の進捗状況及び2023年度の支援先（案）について

以 上



日本証券業協会
Japan Securities Dealers Association



とう し
10/4は
証券投資の日

株主優待SDGs基金に関する2022年度の進捗状況及び 2023年度の支援先（案）について

2022年12月

日本証券業協会

SDGs推進本部 SDGs推進室

1. 株主優待SDGs基金の概要



2019年4月に設置した株主優待SDGs基金の目的、形態、原資及び使途は以下のとおり。

基金の目的

株主優待等を利用して、国連が提唱する国際社会全体の目標であるSDGsに係る社会的課題に取り組む者を支援し、もって国際社会におけるSDGsの達成に資することを目的に、本基金を設置する。

基金の形態

本基金は、日証協内に「株主優待SDGs基金特別会計」を設置し、同会計において処理を行う。

基金の原資

次のいずれかとする。

- 会員等が本基金を寄付先とする社会貢献型の株主優待を実施することにより本基金に寄付した金銭
 - ①当該メニューを選択した株主に係る株主優待相当額
 - ②株主優待品の受領を放棄した株主に係る株主優待相当額
- 会員等が上場会社の株主である場合に、当該上場会社から取得した株主優待品を換金して得た金銭を本基金に寄付したときの当該金銭

基金の使途

SDGs懇談会に諮問し、証券戦略会議が認めた、次に掲げる活動を行う者を支援するための寄付としてのみ拠出する。

- 国連システム（総会、理事会、事務局、諸計画、基金、専門機関、その他の関連機関等）の活動のうち、SDGsの達成のために寄与すると認めるもの
- その他、SDGsの達成のために必要と認めるもの

2. これまでの支援先・実績 及び 2022年度の進捗状況



2019年度

<支援先> WFP国連世界食糧計画（国連WFP）

11,963,616円

拠出があった会員証券会社等（計8社、50音順）

岩井コスモ証券、SBI証券、共和証券、Jトラストグローバル証券、大和証券グループ本社、東海東京FH、中原証券、野村證券

2020年度

<支援先①> WFP国連世界食糧計画（国連WFP）

5,385,065円

<支援先②> 子供の未来応援基金

4,743,066円

合計 10,128,131円

拠出があった会員証券会社等（計10社、50音順）

岩井コスモ証券、S B I 証券、共和証券、Jトラストグローバル証券、大和証券グループ本社、東海東京FH、中原証券、長野証券、野村證券、丸三証券

2021年度

<支援先①> WFP国連世界食糧計画（国連WFP）

12,427,237円

<支援先②> 子供の未来応援基金

12,066,238円

合計 24,493,475円

拠出があった会員証券会社等（計13社、50音順）

岩井コスモ証券、S B I 証券、岡三証券、共和証券、光世証券、Jトラストグローバル証券、大和証券グループ本社、東海東京FH、中原証券、長野証券、野村證券、丸三証券、楽天証券

2022年度 (2022年11月末時点)

<支援先①> WFP国連世界食糧計画（国連WFP）

2 先への配分金額は期中につき未定

<支援先②> 子供の未来応援基金

合計 25,597,681円

拠出があった会員証券会社等（計4社、50音順）

岩井コスモ証券、S B I 証券、イービーエヌ・アムロ・クリアリング証券、大和証券グループ本社

3. これまでの支援先及び選定方針

2019年度

支援先◆ WFP国連世界食糧計画（国連WFP）

以下の考え方より、SDGsの達成のために寄与すると考えられる活動を行う国連システムより選定。

- スピード感を持って支援先の選定を行う必要があるため、**既にガバナンス体制が構築されている団体**が適当。
- 株主優待を辞退している海外投資家や機関投資家に納得性の高い、**グローバルな活動を行う団体**が適当。

2020年度

支援先◆ WFP国連世界食糧計画（国連WFP） ◆ 子供の未来応援基金

以下の考え方より、**複数（国内、海外各1先の2先を想定）の支援先を選定**。

- これまでの実績を踏まえると、寄付金の原資として①社会貢献型の株主優待②自社が受け取る株主優待品の換金相当額の双方が見られ、そもそもの原資の出し手（株主、会員証券会社）のニーズが異なること。
- 株主優待を辞退している海外投資家や機関投資家に納得性の高い、グローバルな活動を行う団体が適当であると考えられる一方、日本国内の投資家にとっては、日本国内で活動するNPO法人等への寄付は理解を得やすいと考えられること。
- これまでにおいても毎年度1,000万円以上の寄付をいただいております、今後もある程度の規模の拠出金額が見込まれること。

なお、選定する支援先については、過去の寄付実績のある証券会社の意見を踏まえつつ、次の①②において、それぞれ1先ずつ選定を行うこととする。

① 国連システム

② 日本国内のNPO法人等を広く支援している実績がある団体等

支援先選定にあたっては、次の点を考慮することとする。

- ある程度の認知度・実績があり、かつ既にガバナンス体制が構築されていて資金使途の透明性が高い団体であること。

2021~
2022年度

引き続き

支援先◆ WFP国連世界食糧計画（国連WFP） ◆ 子供の未来応援基金

以下の考え方より、これまでの支援先を継続的に選定。

- **継続的に支援することにより、本基金のプレゼンスが向上するため。**

4. 2023年度支援先の検討

支援先検討について

本基金設立 5 年目となる2023年度の支援先については、次のとおり検討したい。

- これまでの寄付先における支援内容は、いずれも「子どもの支援」を対象としている。本基金の目的である国連が提唱する国際社会全体の目標であるSDGsに係る社会的課題は多岐にわたるため、複数先に寄付する場合、**支援内容に偏りがないように証券業界がSDGs推進にあたり、フォーカスを当てている「環境」、「女性」、「子ども」といった3つの社会的課題に関連する支援先候補を検討する。**
- これまでいただいたご意見等を踏まえつつ、寄付実績のある会員証券会社や「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」にも意見照会を実施し、検討する。

5. 2023年度の支援先候補

事務局では次のプロセスにて2023年度の支援先候補を検討し、2021年度寄付実績のある会員証券会社に意見照会を行った。

■ プロセス 1 ■

これまでの議論等を踏まえ、次の点を考慮し、
支援先候補として7先を検討

- ◆ 支援地域に偏りがいないこと
(グローバルな活動を行う団体、
国内で活動を行うNPO等を支援する団体を選定)
- ◆ 一定程度の認知度・実績がある
- ◆ 既にガバナンス体制が構築されている
- ◆ 資金使途の透明性が高い
- ◆ 支援内容に偏りがいないこと
(証券業界がSDGs推進にあたり、特にフォーカスを当てている
「環境」、「女性」、「子ども」
の3つの社会的課題に関連する団体を選定)

■ プロセス 2 ■

7先から、次の点を考慮し、2先を選定。

- ◆ レポートिंगにおける資金使途がより明確であること
- ◆ 本基金のプレゼンス向上が見込まれること
- ◆ 本協会の別事業での支援先との重複がないこと
～上記選定を踏まえて～
- ◆ グローバルな活動を行う団体 (株主優待を辞退している海外投資家や機関投資家に納得性の高い先) 及び国内で活動を行うNPO等を支援する団体 (日本国内の投資家にとって納得性の高い先) の2先を含むこと

■ 最終支援先 (案)

- ・ WFP国連世界食糧計画 <継続先>
... 「**海外**」、「**子ども**」に関する支援
 - ・ 緑の募金 (公益社団法人 国土緑化推進機構) <新規>
... 「**国内**」、「**環境**」に関する支援
- «意見照会時の主なコメント»
- ・ 支援内容が「子ども」、「環境」とバランスが取れている。
 - ・ SDGsの観点から支援先のテーマを拡大する点に同意。
 - ・ 「環境」、「子ども」はSDGsの主旨に沿い、かつ選定プロセスが明確。等

6. 2023年度の支援先（案）

2023年度の支援先は、前頁のプロセスのとおり検討し、「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」の意見を踏まえて、次の2先としたい。

◆ 寄付先① **WFP 国連世界食糧計画**



- ✓ 学校給食（一日約 30 円）の支援

【支援により期待される効果】

- ✓ 子どもの栄養状態が改善され、勉強への集中力が向上
- ✓ 家事等のため家に留め置かれがちで学校へ通えない女子の就学促進
- ✓ 教育の普及により、国の安定と発展に寄与



© WFP/Boris Heger

◆ 寄付先② **緑の募金**（公益社団法人 国土緑化推進機構）



- ✓ 当機構によって採択された植樹・間伐などの国内における森林整備などの活動を行う団体への支援

【支援により期待される効果】

- ✓ 身近な地域の緑化活動、森林の適切な間伐・樹木による、地球温暖化抑制



令和3年度事業報告書より

6. 2023年度の支援先（案） WFP国連世界食糧計画



（現寄付先）WFP国連世界食糧計画 ※2019年度～2022年度支援先

支援先概要	目的及び活動内容	飢餓のない世界を目指し、緊急食料支援、母子栄養支援、学校給食支援、自立支援等の様々な食料支援活動を実施。
	支援対象	災害や紛争の被災者、妊婦や授乳中の母親、栄養不良の子どもなど、最も貧しい暮らしを余儀なくされている人々。
	認知度 （投資家等への訴求）	高い 2020年にはノーベル平和賞を受賞するなど、認知度は高いと思われる。 また2020年度においては、寄付金総額の約7割が個人によるもの。
	支援先における本基金のプレゼンス	高い ・2021年度における寄付金総額は約20億円。 ・年間100万円以上の寄付で国連WFP協会パンフレットへの本基金の掲載が可能であり、感謝状も贈呈される。
支援内容	具体的資金使途	学校給食支援 ・給食一日約30円
	支援の効果	・子どもの栄養状態を改善し、勉強への集中力を向上。 ・家事のため学校へ通えない女子の就学率が向上。 ・教育は国の安定と発展に寄与。
	貢献するSDGs目標	ゴール1、2、4、5、8、10、17
	レポーティング	「拠出金を学校給食〇日分に使用」といった具体的報告が可能。

参考（本団体への支援を実施している企業）：日清食品、日本ハム、キッコーマン、中村屋、カンロ等

注）寄付金の送金先は、日本における国連WFPの公式支援窓口である特定非営利活動法人 国連WFP協会（代表者：安藤宏基会長）となる。

6. 2023年度の支援先（案）

緑の募金（公益社団法人 国土緑化推進機構）



（新候補先）緑の募金（公益社団法人 国土緑化推進機構）

支援先概要	目的及び活動内容	豊かな生活を支え、多くの恵みを与えてくれる森林は、国内では手入れ不足等によって森林が本来のはたらきを発揮できていない状況にあり、身近な地域や国内外の森づくりにつなげ、さまざまな「森づくり・人づくり」活動の活性化に活かすために創設。
	支援対象	国内外の緑を健全にするための活動を行う森林ボランティア団体、NPO、事業者等
	認知度 （投資家等への訴求）	高い 多くの企業・個人のほか、国・地方公共団体・大学等も本基金に参加している。
	支援先における本基金のプレゼンス	高い 2021年度末時点における寄付額総額は約20億円。 10万円以上の寄付で、本機構のウェブサイトへの掲載が可能であり、感謝状も贈呈される。
支援内容	具体的資金使途	主に、植樹・間伐・作業道整備等の森林整備活動、水源林整備活動等、国内の「森林整備」に関するもの。
	支援の効果	身近な地域の緑化活動、森林の適切な間伐・樹木による、地球温暖化の抑制。
	貢献するSDGs目標	ゴール7、11、13、15、17
	レポーティング	支援が採択されたプロジェクトについて、本機構ウェブサイト内の事業報告書にて内容を公表。 ※2023年度の寄付金は、2024年7月～2025年6月の間に行った森林整備活動に充てられ、採択された事業活動は、2026年7月頃公表予定。 「〇円で〇ヘクタールの植林を行い、CO2吸収量〇トンを実現」などのレポートが可能。

参考（本機構への支援を実施している企業）：麒麟ビバレッジ、KDDI、東京ガス、ファミリーマート等

これまでのSDGs懇談会では以下のような意見があった。

- 株主優待品を受領できない海外投資家や機関投資家にも、納得性の高い寄付先を選定すべきである。**海外投資家等にも理解を得られやすい、国連関係機関への寄付としてはどうか。**
- 基金の規模感や国内でも様々な社会問題があることを踏まえると、**日本国内のNPO法人等に支援することで良いのではないか。**
- **透明性の観点からは、広く募って選定**していくといったプロセスが必要だと考える。
- 将来的に規模が大きくなれば国際的な機関に寄付するのもよいが、**大きな団体だと何に使われたかわかりにくいので、国連機関であったとしても資金使途が見える形でないとならない。**

【参考】株主優待SDGs基金の概要

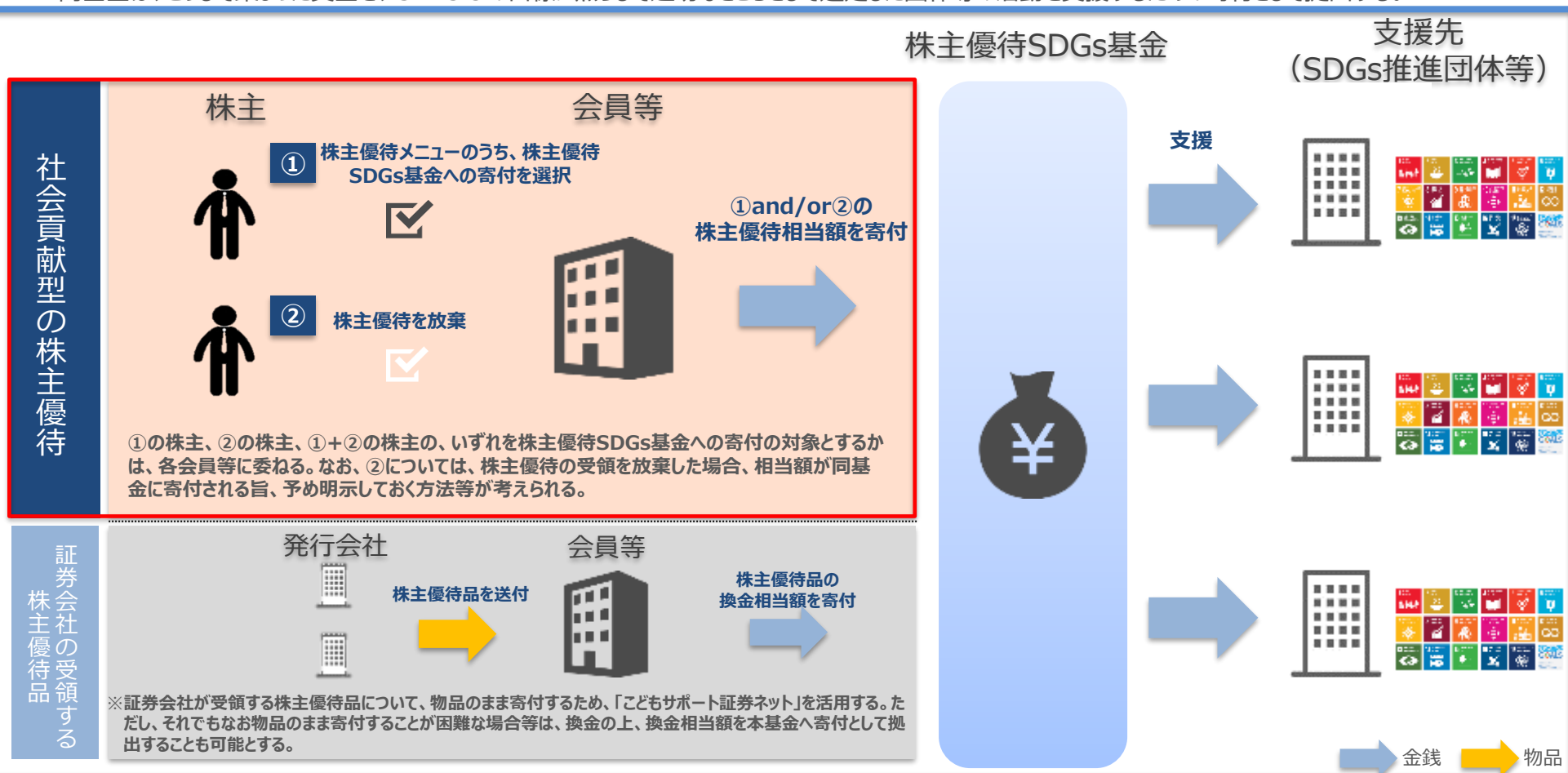
- 日証協内に株主優待SDGs基金を設置。
- 本施策に賛同する会員及び会員の持株会社（会員等）が同株主に対して提供する株主優待メニューの一つとして「株主優待SDGs基金への寄付」を設け、同基金は以下の株主優待相当額を原資とする寄付を受け入れる。

① 当該メニューを選択した株主に係る株主優待相当額

② 株主優待品の受領を放棄した株主に係る株主優待相当額

なお、同基金は**会員等が受領する株主優待品の換金相当額**を原資とする寄付も受け入れる。

- 同基金は、こうして集まった資金を、SDGsの目標に照らして適切などころとして選定した団体等の活動を支援するための寄付として拠出する。



【参考】各支援先への拠出・配分について

<株主優待SDGs基金の原資（2パターン）>

社会貢献型の株主優待



証券会社の受領する株主優待品



<支援先への拠出・配分方法>

方法A
2先（WFP／子供基金）への拠出を等分に行う

XXXXXXXXXXXX	WFP
XXXXXXXXXXXX	子供
XXXXXXXXXXXX	他
XXXXXXXXXXXX	他

方法B
会員において、どちらか（WFP／子供基金）を選択

XXXXXXXXXXXX	WFP
XXXXXXXXXXXX	他
XXXXXXXXXXXX	他

方法C
株主・投資家が、どちらか（WFP／子供基金）を選択

XXXXXXXXXXXX	WFP
XXXXXXXXXXXX	子供
XXXXXXXXXXXX	他

原則として、2先（WFP／子供基金）へ等分に拠出する

